

# 佐賀県公立高校入試徹底分析【理科】

## 【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点	
問題構成	大問は5つ、各大問10点×5で50点満点。生物・化学・地学・物理からバランスよく出題されている。問題量は13ページ分で、ここ数年大きな変化はない。出題は中1内容31.7%、中2内容24.4%、中3内容43.9%と、昨年中3内容が25%と少なかったが今回は増えている。論述問題は1問→3問と増えているが、例年1～3問の出題となっている。			

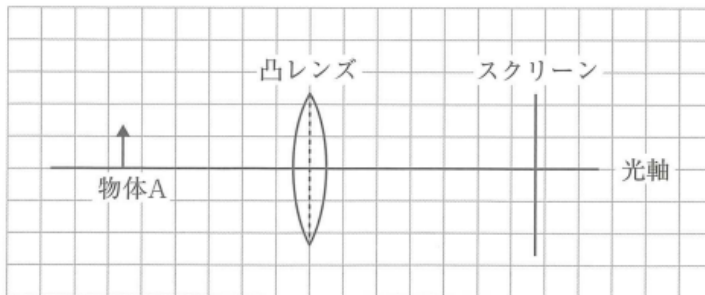
	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)	平成31年度(2019)
問題量 (A4で)	13ページ分	14ページ分	14ページ分	13ページ分	14ページ分
小問数	41問	41問	41問	38問	40問
論述問題の数	3問	1問	2問	2問	3問
論述問題配点	6点	1点	4点	4点	5点
受験者平均点	25.1点	27.9点	26.4点	27.9点	26.5点

## 【出題の傾向と対策】

### 1 作図問題は入試頻出パターンが出るので、作図についても対策ししっかり正答したい！

R5 1

- (1) 凸レンズの左側に物体Aをおき、凸レンズの右側に置いたスクリーンを動かすと、図の位置のときスクリーン上にはっきりとした像ができた。  
この凸レンズの2つの焦点を作図により求め、点(●)で示しなさい。ただし、作図の線は消さずに残しておくこと。



作図について、  
R5は光と柱状図の2問  
R4はフックの法則のグラフ  
R3は合力  
R2は回路図と毎年出題されている。

### 2 化学式・化学反応式・イオンをあらわす化学式を書かせる問題は必ず出題される！

R4 5

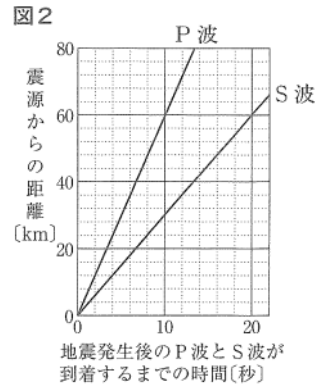
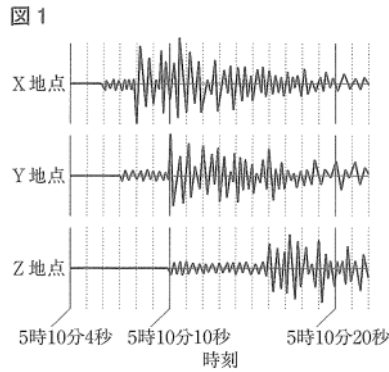
- 1 (1) 次の式は、塩化ナトリウムが水に溶けたときの電離のようすをあらわしている。  
( ① )、( ② ) にあてはまる化学式を書きなさい。



H28～R5までの8年間でH30以外は出題されている。出題されやすい問題は決まっているので、確実に正答しておきたい！

**3 計算問題は、基本問題がほとんどなので、基本公式や考え方をしっかり身につけ、図や表を正確に読み取り、確実に正答する力が必要である！**

R4 3



3 (2) Y地点から震源までの距離は約何kmか、書きなさい。

計算問題は、  
 R5では、仕事と仕事率  
 R4では、地震、圧力、浮力、再結晶  
 R3では、湿度、水蒸気量  
 R2では、仕事、質量パーセント濃度、抵抗と電力量、南中高度などが出題されている。

**4 記述問題は、入試頻出レベルの基本問題と、環境問題など身近な問題についても理解しておく必要がある。**

R3 2

2 (3) ② 生態系においては、生物の数量に一時的な変化があっても、再びもとに戻りつり合いが保たれる。しかし、なんらかの原因により生態系のつり合いが大きく崩れた場合、もとの状態にもどらなくなることがある。このような生態系の数量関係に大きな影響を及ぼすと考えられる具体的な原因を1つ書きなさい。

問題数は少ないが、記述問題は必ず1~3問は出題される。今後出題数が大幅に増えることも予想されるので、入試頻出の基本レベルの内容と合わせて、環境問題など普段からニュースや新聞などから情報を集め、知識をつけておく必要がある。

**解答**

- R5 大問 1 2 (1) 右図参照
- R4 大問 5 1 (1) ① Na<sup>+</sup> ② Cl<sup>-</sup>
- R4 大問 3 3 (2) 18 km
- R3 大問 2 2 (3) 大規模な自然災害  
 外来種が持ちこまれる  
 人間による乱獲

